

平岸街道

平岸街道は、豊平との境界線（平岸一丁目）から澄川との境界線（平岸一八丁目）までの道路です。現在は平岸通と呼ばれ、南北に一直線に延び、商店が軒を連ねています。車が激しく往来する今では想像もつきませんが、かつて、道路の中央に用水堀がありました。

明治四（一八七一）年、開拓使が幅一八尺、延長約二千五百尺にわたって原始林を切り開きました。当時は密林を切り倒しただけの荒道で、順次、交通可能な道路に整備していきました。

また、この地は井戸水がほ



開拓当時の平岸

とんど出ないため、飲み水は豊平川までくみに行かなければなりません。そこで明治六（一八七三）年に、村人は用水堀を造ることにし、精進川から水を取り入れ、平岸街道の真ん中に流したのです。

当時の平岸街道は用水堀を挟み、西側が上道、東側が下道と呼ばれ、上道は開拓使が管理し、下道は地域で管理していました。



用水堀があったころの平岸街道
(明治四十四年)

ンゴ園も宅地に変わり、街道は交通量も多くなり拡幅されることになりました。このため、用水堀は昭和三十六（一九六

一）年に埋め立てられ、八十八年にわたる歴史の幕を閉じました。そして、道道から国道へと格上げになり、多くの車が行き交う国道453号の一部として重要な幹線道路となつています。用水堀があった場所は現在、中央分離帯となり、ひめリンゴの木が植えられ、歴史の面影を残しています。



現在の平岸通（平岸3条16丁目付近）



アンパン道路

アンパン道路は、国道36号から月寒公園の南側を経て平岸通へ通じる起伏に富んだ道路です。

明治四十三（一九一〇）年には、現在の豊平地区が札幌区に編入され、豊平町役場が大字豊平村から大字月寒村へ移転しました。しかし当時は、平岸村から月寒に直接通じる道路がなかったため、平岸村の人々が月寒の役場に行くには大きく迂回しなければならなく大変不便でした。このため、新しい役場と大字平岸村をつなぐ新道・アンパン道路が造られることになりました。起伏が激しかったこと、水田を埋め立てなければならなかったことなど、とても大変な工事だったので、当時月寒にあった歩兵第二十五連隊の応援によって工事が進められました。兵士には毎日あんぱん五個が間食として配給されました。このため明治四十四

（一九一〇）年に完成した道路は、アンパン道路と呼ばれるようになりました。アンパン道路の途中（月寒西四条六丁目）には、アンパン道路の記念碑があります。



アンパン道路の工事（明治44年）



現在のアンパン道路（月寒西四条六丁目記念碑の前）

